

武蔵野の森を育てる会・会報

—第3号—

平成 21 (2009) 年 11 月

武蔵野の森を育てる会

HP : <http://mnomori.org/default.aspx>

私たちの会は、武蔵野市公認の緑ボランティア団体です。武蔵野市緑化環境センターとの協働によって、市立「^{さいかいさんやりのよこち}境山野緑地」に豊かな生態系の雑木林（森）を育てるために保全活動を行っています。

こんな活動を行っています

- ・ 日常の管理作業 いつも気もちのよい自然の景観を保つため、ごみ拾い・清掃、外来種取り、低木の剪定、竹林管理、工作物の補修、夏の水遣りなど、ていねいな日常作業を行っています。
- ・ 学習活動 豊かな生態系の雑木林を育てるため、他地域での森づくり活動の見学、植物・昆虫・土壌生物などの観察会を行い、日常の管理作業に生かしています。
- ・ 緑地内の産物の活用 腐葉土づくり、苗木育てなど、緑地産の資源を利用し、ゴミに出さずに循環させます。



子どもたちも参加した昆虫の勉強会



管理方針についての打合わせ

地域のネットワークを広げています

- ・ 地域の方々の参加 定例作業に近隣からの参加者もあり、森を育てる地域の輪が広がっています。
 - ・ 亜細亜大生・成蹊大生の活躍 市内の二つの大学にあるボランティアサークルの学生さんたちが、毎回参加して、皆で賑やかに活動しています。
 - ・ 市立第二小学校と連携 本会はネイチャーゲームなど、学校の授業に協力しています。小学生が植えたドングリの苗木もスクスク育っています。
- ・ その他 「2009年夏！体験ボランティア」（ボランティアセンター武蔵野）、生活クラブ生協のネイチャーゲーム、福生市「市民環境大学」などに協力しました。

「2009年夏！体験ボランティア体験」参加学生の感想より

初めてで、いろいろわからないことがありましたが、皆さんとても優しくよかったです！！とても暑くていっぱい蚊に刺されましたが、楽しかったのでまた参加したいです！！(M.Nさん)／キレイな公園を維持するために、多くの人が影で努力していることがわかりました。また参加したいです。(T.M.)／とてもいい汗をかくことができました。自分の家の周りがある森にも関心を持つと思いました。(K.I.)

通りがかりの人の感想より（記帳台のノート）

昔、青年の家があったことを思い出しました。武蔵野の自然を是非守っていきたいですね。(犬の散歩の方)／ちょっとしたきっかけで参加した活動だったけど、この緑地から色々なことを学ばせてもらってます。(ボランティアの学生さん)／「山鳩のドロドロ鳴いて秋の暮(くれ)」(俳人の方)

ぜひ一緒に作業しましょう！

森を育てようという気持ちのある方、ぜひ一緒に作業をしましょう。お待ちしております。予定表は境山野緑地内の掲示板に表示します。あるいは上記の田中までお問合せを。(寄付も常時受け付けています。緑地保全のための調査、学習、地域・他団体との連携などに活用させていただきます。よろしくお願いたします。)

土の小さな生き物たちが支える自然

雑木林は、土の表面や土の中に棲む小さな生き物たちのおかげで、自然が豊かになって植物だけでなく昆虫や野鳥などが元気に暮らせます。しかし、人が頻繁に歩くことで土が踏み固められてしまうと、こうした小さな生き物がいなくなり、雑木林の生物多様性が低下するといわれています。

そこで9月下旬、境山野緑地の南側部分（通称「独歩の森」）で、ツルグレン装置を用いて土壌動物の調査^(注)を行いました。その結果、①土の柔らかい木の根元あたりは7種63個が抽出できたのに対し、②踏み固められた場所では3種4個体しか抽出できず、固い土では土壌動物がほとんど棲息できないことがわかりました。

未来の子どもたちに自然の豊かな「独歩の森」を残すために、私たちはどうしたらいいのでしょうか？

(注) 小峰光弘氏（日本土壌動物学会会員）による調査。いずれも落ち葉を含む1.8リットルの土壌を採取。



落ち葉から土をつくるミミズ



地面に落ちた枝に棲むカミキリムシの幼虫

継続的な植物調査への取り組み

豊かな生態系の雑木林を育てるには、さまざまな側面から検討しなければなりません。そこで、本会では植生調査に力を入れて、植物の状況の正確な把握に努めています。そのための方法として、2008年から10m四方の固定調査区をつくり、植生調査を始めました。2008年は「二小ゾーン」（緑地北側中央のロープ柵で保護してある部分。平成17年に市立第二小学校の子どもたちが植樹に参加。）に1箇所、2009年はもう1箇所「独歩の森」につくりました。調査の結果を簡単に報告します。

「二小ゾーン」では、10m四方に2008年では53種の植物が見られ、2009年には58種になりました。この間に新しく加わったものが18種、消えたものは13種でした。そのうち外来種については、6種消えましたが、3種新しく入りました。以上から全体としては5種増えましたが、外来種は3種減りました。

また、全ての階層で植被率が増えました。一番低い層の草本層が50%→80%になったのは、人の立入を減らした効果と考えられます。まだ土が硬く、部分的には裸地に近いところが残っているので、今後も立入は増やすべきではないと考えられます。また、低木層のイヌシデは多すぎ、今後他の植物を圧迫して多様性を低下させる恐れがあるので、間引きが必要と考えられます。

「独歩の森」では、10m四方に39種出現しました。「二小ゾーン」と比べると少ないのですが、都内の他の雑木林と比べると、市街地の孤立した林としては大健闘！といえる種数です。また出現した中身を見ると、武蔵野市内では少ない森林生の種が含まれており、この森の価値の高さが確認されました。明らかな外来種は2種でした。当面の課題としては、常緑樹が茂りすぎないようにすることと、土が硬くなり林床の植物が衰退しないよう立入りなどを制限することが必要と考えられました。

今後も毎年、継続的に調査し、調査結果を適切な管理に役立てていきたいと思います。

さかいさんやりょくち 境山野緑地とは？

平成17（2005）年4月、武蔵野市立の緑地として開園しました。明治の文豪・国木田独歩との係わり合いがあることから、地元では「独歩の森」とも呼ばれています。武蔵野市においては、「市内に残る本来の雑木林としては唯一の存在」です。そこで、『武蔵野市緑の基本計画2008』では、境山野緑地の保全を重点施策に位置づけ、林の自然の再生を目指すこととしています。

（JR中央線武蔵境駅北口より徒歩十分）



東京都武蔵野市境 4-5



境山野緑地南側部分の雑木林